

【A年】

大齋節第五主日

全能の神よ、み子イエス・キリストは大祭司として来られ、その血をもって至聖所に入り、ただ一たび永遠の贖いを全うされました。どうかご自身を神に献げられたキリストの血によって、わたしたちの良心を死に至る行いから清め、あなたに仕えさせてください。主イエス・キリストによってお願いいたします。アーメン

司祭 「聖書のみ言葉を聞きましょう」

会衆は着席する。

旧約聖書

朗読者 「旧約聖書はエゼキエル書第三十七章一節から」

1 主の手がわたしのの上に臨んだ。わたしは主の霊によって連れ出され、ある谷の真ん中に降ろされた。そこは骨でいっぱいであった。2 主はわたしに、その周囲を歩き巡らせた。見ると、谷の上には非常に多くの骨があり、また見ると、それ

らは甚だしく枯れていた。3 そのとき、主はわたしに言われた。「人の子よ、これらの骨は生き返ることができるか。」わたしは答えた。「主なる神よ、あなたのみがご存じです。」11 主はわたしに言われた。「人の子よ、これらの骨はイスラエルの全家である。彼らは言っている。『我々の骨は枯れた。我々の望みはうせ、我々は滅びる』と。12 それゆえ、預言して彼らに語りなさい。主なる神はこう言われる。わたしはお前たちの墓を開く。わが民よ、わたしはお前たちを墓から引き上げ、イスラエルの地へ連れて行く。13 わたしが墓を開いて、お前たちを墓から引き上げるとき、わが民よ、お前たちはわたしの主であることを知ることになる。14 また、わたしがお前たちの中に霊を吹き込め、お前たちは生きる。わたしはお前たちを自分の土地に住まわせる。そのとき、お前たちは主であるわたしがこれを語り、行ったことを知ることになる」と主は言われる。

朗読者 「旧約聖書を終わります」

詩編

腰掛けたままで、「一節ずつ交互に唱える。」

第一三〇編

1 主よ、深い淵からあなたに叫び＝嘆き祈るわたしの声

を聞いてください
2 主よ、あなたが目を留められるなら＝ 主よ、だれがあ
なたの前に立ちえよう

3 しかし、あなたの赦しのために＝ 人はあなたを畏れか
しこむ

4 わたしは主を待ち望む、わたしの魂は待ち望む＝ わ
たしはみ言葉に寄り頼む

5 夜回りが 暁を待ち望むにもまして＝ わたしの魂は
主を待ち望む

6 イスラエルよ、主に寄り頼め＝ 主は豊かな贖いに満
ち、慈しみ深い

7 神は、すべての罪から＝ イスラエルを救われる

使徒書

朗読者 「使徒書はローマの信徒への手紙第六章十六節から」

16 知らないのですか。あなたがたは、だれかに奴隷として従
えば、その従っている人の奴隷となる。つまり、あなたが
たは罪に仕える奴隷となって死に至るか、神に従順に仕え
る奴隷となって義に至るか、どちらかなのです。17 しかし、神
に感謝します。あなたがたは、かつては罪の奴隷でしたが、今
は伝えられた教えの規範を受け入れ、それに心から従うよ
うになり、18 罪から解放され、義に仕えるようになりまし

た。19 あなたがたの肉の弱さを考慮して、分かりやすく説明
しているのです。かつて自分の五体を汚れと不法の奴隷とし
て、不法の中に生きていたように、今これを義の奴隷として献
げて、聖なる生活を送りなさい。20 あなたがたは、罪の奴隷
であったときは、義に対しては自由の身でした。21 では、
そのころ、どんな実りがありましたか。あなたがたが今では恥
ずかしいと思うものです。それらの行き着くところは、死に
ほかならない。22 あなたがたは、今は罪から解放されて神
の奴隷となり、聖なる生活の実を結んでいます。行き着くと
ころは、永遠の命です。23 罪が支払う報酬は死です。し
かし、神の賜物は、わたしたちの主キリスト・イエスによる
永遠の命なのです。

朗読者 「使徒書を終わります。」

一同立つ。
ここで聖歌を歌う。

福音書

司祭 「主は皆さんとともに」

会衆 「また、あなたとともに」

司祭 「聖ヨハネによる福音書第十一章十七節以下に記さ

会衆 かいしゅう 「主に栄光がありますように」
れた主イエス・キリストの福音。 ふくいん 主に栄光」
しゅ えいこう

17 さて、イエスが行って御覧になると、ラザロは墓に葬られて既に四日もたつていた。18 ベタニアはエルサレムに近く、十五スタディオンのほどのところにあつた。19 マルタとマリアのところには、多くのユダヤ人が、兄弟ラザロのことで慰めに来ていた。20 マルタは、イエスが来られたと聞いて、迎えに行つたが、マリアは家の中に座つていた。21 マルタはイエスに言った。「主よ、もしここにいてくださいましたら、わたしの兄弟は死ななかつたでしように。22 しかし、あなたが神にお願いになることは何でも神はかなえてくださると、わたしは今でも承知しています。」23 イエスが、「あなたの兄弟は復活する」と言われると、24 マルタは、「終わりの日の復活の時に復活することは存じております」と言つた。25 イエスは言われた。「わたしは復活であり、命である。わたしを信じる者は、死んでも生きる。26 生きていてわたしを信じる者はだれも、決して死ぬことはない。このことを信じるか。」27 マルタは言つた。「はい、主よ、あなたが世に来られるはずの神の子、メシアであるとわたしは信じております。」

28 マルタは、こう言つてから、家に帰つて姉妹のマリアを呼び、「先生がいらして、あなたをお呼びです」と耳打ちした。29 マリアはこれを聞くと、すぐに立ち上がり、イエスのもとに行つた。30 イエスはまだ村には入らず、マルタが出迎

えた場所におられた。31 家の中でマリアと一緒にいて、慰めていたユダヤ人たちは、彼女が急に立ち上がつて出て行くのを見て、墓に泣きに行くのだらうと思ひ、後を追つた。32 マリアはイエスのおられる所に来て、イエスを見るなり足もとにひれ伏し、「主よ、もしここにいてくださいましたら、わたしの兄弟は死ななかつたでしように」と言つた。33 イエスは、彼女が泣き、一緒に来たユダヤ人たちも泣いているのを見て、心に憤りを覚え、興奮して、34 言われた。「どこに葬つたのか。」彼らは、「主よ、来て、御覧ください」と言つた。35 イエスは涙を流された。36 ユダヤ人たちは、「御覧なさい、どんなにラザロを愛しておられたことか」と言つた。37 しかし、中には、「盲人の目を開けたこの人も、ラザロが死なないようにはできなかったのか」と言う者もいた。

38 イエスは、再び心に憤りを覚えて、墓に來られた。墓は洞穴で、石でふさがれていた。39 イエスが、「その石を取りのけなさい」と言われると、死んだラザロの姉妹マルタが、「主よ、四日もたつていますから、もうにおいます」と言つた。40 イエスは、「もし信じるなら、神の栄光が見られると、言つておいたではないか」と言われた。41 人々が石を取りのけると、イエスは天を仰いで言われた。「父よ、わたしの願いを聞き入れてくださつて感謝します。42 わたしの願いをいつも聞いてくださることを、わたしは知っています。しかし、わたしがこう言うのは、周りにいる群衆のためです。あなたがわたしをお遣わしになつたことを、彼らに信じさせ

るためです。」43 こう言ってから、「ラザロ、出て来なさい」と大声で叫ばれた。44 すると、死んでいた人が、手と足を布で巻かれたまま出て来た。顔は覆いで包まれていた。イエスは人々に、「ほどいてやって、行かせなさい」と言われた。

司祭 「主に感謝」
会衆 「主に感謝します」